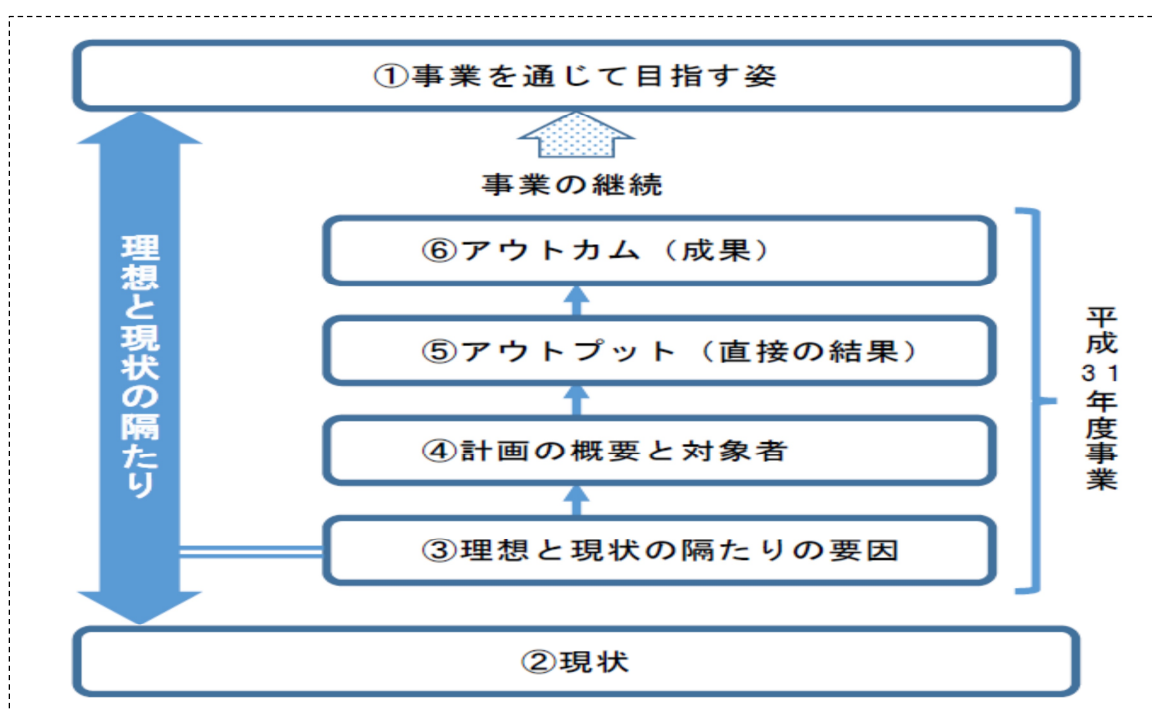


事業計画書

事業名	玉島陶・服部地域を持続可能な地域にするための人材発掘と育成の研修会
団体名	玉島陶・服部地域まちづくり協議会

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

玉島陶・服部地域を持続可能な地域にする。

- 1) 住民が地域に愛着、誇りをもち、豊かな心で活気あふれる地域にする。
- 2) 移住者を受け入れる体制をつくり、積極的に受け入れる地域にする。
- 3) 地区社会福祉協議会と連携して人と人との繋がりを大切にして生きがいを感じる地域にする。

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回, 各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成, 800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回, 各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回, 各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

5 アウトプット（直接の結果）

平成 31 年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

地区住民を対象に地区の将来を考える研修会を 2 回開催する。
 中学生以上の地区住民を対象にアンケートを実施する。
 かわら版を発行して事前のお願い、事後の報告をすることで地区住民にまちづくり協議会の活動を周知し理解してもらう。
 地区社会福祉協議会が行う行事にまちづくり協議会のブースをだして、やってきたこと、やろうとしていることをパネルで紹介する。そこで直接話をして、地区住民の方にまちづくり協議会の活動を理解してもらう。
 ホームページを使って地区外の人に情報発信をして、穂井田でええとこぐらしをしたい人を募る。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
研修会	80 人	140 名 (40 名 100 名)
全員アンケート	0 人	800 (1400 名 × 0.6)
ブース	0 人	30 名 (夏祭り) 40 名 (文化祭)

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

各取り組みを実施するごとに、参加人数を数える

6 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 31 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

研修会、全員アンケート、ブースでのパネル展示等を通して、活動を知ってもらい、自分たちの住む地域について考える機会を持つことで、元々住んでいるの人々が積極的な意思を持って住み続けるための「愛着・誇り」が構築され、そして、地区住民同士で「愛着・誇り」を共有することが出来る。
 陶、服部地区を持続可能な地区にするためには、地区住民一人ひとりの参加が大切で自分のことであることを認識する。ビジョンづくりをして、何から始めたらいいのか、どんな方法があるのかを決定していくので、具体的に見えてくるようになる。
 持続可能な地区になるためには、積極的に移住者を受け入れる必要があることが理解できるので、宅地にする候補地案も作りやすくなる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

研修会

内 容：持続可能な地区になるためにはどんなことが必要になってくるのか。今からすることは何なのか考察をする。全員アンケートから見えてくるものは何か

対 象 者：現在陶・服部地区に住んでいる人

期 間：6月から12月の間2回開催

実施場所：穂井田憩いの家、穂井田小学校体育館

ね ら い：持続可能な地区になるためのビジョンの必要性。何を、いつから、どんな方法でやるのか参加者一人ひとりに考えてもらう。

これからの陶・服部地区には移住者を受け入れることが必要であることを認識し、宅地にする候補地選定のルールづくりの必要性を理解してもらう。

積極的にこの事業に参加する人材を発掘する場にする。

全員アンケート

内 容：これからの陶・服部地区を持続可能にするためには一人ひとりの参加が不可欠であることを認識してもらうことと、若い人からお年寄りまでの意識調査をする。

対 象 者：中学生以上の地区住民

期 間：7から8月の間1回開催

実施場所：各家庭

ね ら い：ビジョンづくりの必要性とビジョンづくりのための調査、一人ひとりが積極的にこの事業に参加するための方法。

玉島陶・服部地域を持続可能な地域にするための人材発掘と育成の研修会。

地区社会福祉協議会の事業にブース開設

内 容：事業報告のパネル（5枚）展示。Face to Face で事業の報告・説明、まちづくり協議会の目的などの周知。

対 象 者：地区内外の会場来場者

期 間：8月、11月の2回開催

実施場所：穂井田小学校グラウンド、穂井田憩いの家

ね ら い：まちづくり協議会の活動を理解していただき、陶・服部地区の将来を自分ごととして考え、活動に関心を持ってもらい、参加意識を高める。

かわら版発行

内 容：A3 サイズ両面に印刷。に当会の活動予定、結果報告をするため。

対 象 者：陶・服部地区住民

期 間：6月、10月、2月の3回発行

ね ら い：当事業が地区住民に浸透して、理解して、積極的に参加してもらうため。

(2) スケジュール（準備～実施～報告）

様式第 2 号

4月	総会開催
毎月	定例会
6月	第1回研修会開催
6月	かわら版発行
7月	全員アンケート
8月	地区社協 夏祭りにブース出店
10月	かわら版発行
11月	地区社協 文化祭にブース出店
12月	第2回研修会開催
2月	かわら版発行

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
小野 健児	穂井田地区社会福祉協議会顧問・農業委員	有り
中島 一郎	穂井田地区社会福祉協議会会長	有り
渡辺 常吉	穂井田地区社会福祉協議会理事・交対協会会長・桃農家	有り
小坂 秀三	穂井田地区社会福祉協議会副会長・土木委員	有り
岡本 弘	穂井田地区社会福祉協議会理事・安全協会支部長	有り
藤井 巧	穂井田地区社会福祉協議会副会長	有り
太田 博朗	穂井田剣道少年団指導者	有り
豊田 園子	穂井田地区社会福祉協議会会計・主任児童委員	有り
村井 正和	穂井田地区社会福祉協議会書記・学童保育責任者	有り
井上 美津子	穂井田地区社会福祉協議会書記	有り
藤原 安信	農地利用最適化推進委員	有り
橋本 伸裕	H28、29年度玉島北中学校 PTA 副会長	有り
臼井 幹夫	青少年を育てる会 会長	有り
森永 博子	愛育委員会 会長	有り
10名を超える場合は、外 名としてください		外(23)名

8 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する見込み： 無し

(2) (2) 徴収しない理由：参加者を多くしたいから

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ²	積算根拠
受益者負担		0	
会費からの繰入		20,000	
その他		0	
市補助金		435,000	
収入合計		455,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ²	積算根拠
人件費(会員) ¹		43,000	850円×2時間×25人≒43,000円
交通費(会員) ¹		0	
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)	研修会講師謝礼	120,000	60,000円×2回
旅費交通費(講師等)	講師交通費	6,000	3,000円×2回
消耗品費	北°-代、ノート 研修会	20,000 7,000	3円×15枚×30×12回=16,200円 A4北°-用紙2,700円 A4ノート1,300円 資料北°-31円(25+3×2)×140人=4,340円 A4コピー用紙2,700円
印刷製本費		0	
通信運搬費		0	
保険料		0	
使用料・賃借料		0	
外注費・委託費	H.P管理費 かわら版 ブース用パネル ブース用のチラシ 研修会募集チラシ	48,000 75,000 90,000 6,000 20,000	トップページ変更、写真変更 年3回発行(25,000円×3) 18,000円×5枚 10,000円×2
対象経費計		435,000	

様式第 3 号

食糧費		20,000	
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		20,000	
支出合計		455,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の 1 割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。

組織運営体制

団体名	玉島陶・服部地域まちづくり協議会
ふりがな	たましますえ・はっとりちいきまちづくりきょうぎかい
法人格(をつけてください)	任意団体 ・NPO 法人・一般財団法人・一般社団法人・公益社団法人 公益財団法人・社会福祉法人・協同組合・その他()
CANPAN 登録の有無	有 ・ <u>無</u>

CANPAN: 日本財団及び特定非営利法人 CANPAN センターが運営する, 市民・NPO・企業などの活動を支援する WEB サイト
以下の項目は, CANPAN に登録する情報と同等の内容です。登録済みの場合は, そちらを参照すると便利です。

1 組織体制

任意団体活動開始年月	2016年 4月(西暦)	
法人格取得年月	年 月(西暦)	
事務所所在地	倉敷市玉島陶 1 8 3 4 - 1	
代表者	職・氏名	会長 小野 健児
	電話番号	090 - 7870 - 2823 (連絡可能時間帯 : ~ :)
ウェブサイト URL	http://hoida.sakura.ne.jp/	
活動地域	倉敷市玉島陶、服部	
役員数・職員数計	22名(役員 8名, 職員 14名)	
設立年月	2016年 11月(西暦)	
活動分野 (該当に をする) (複数回答可)	子ども・青少年・障がい者・高齢者・在日外国人・留学生・福祉・保健・医療・ 教育・学習支援・ 地域 まちづくり・文化・芸術の振興・スポーツの振興・ 環境・エコロジー・災害救援・地域安全・人権・平和・国際協力・国際交流・ 男女共同参画・IT の推進・科学技術の振興・経済活動の活性化・起業支援・ 就労支援・労働問題・消費者保護・市民活動団体の支援・観光・ 農山漁村 ・ 中山間 ・ 助成活動 ・食・産業・漁業・林業・行政監視・情報公開・行政への政策提言・ 学術研究・その他()	
活動目的 (規約等に定めるもの)	玉島陶・服部地域を住みよい地域にするために、玉島陶・服部地域 まちづくり計画に基づく、まちづくりの実践に努めることを目的と する。	

<p>設立以来の主な活動実績</p>	<p>H28年6月～：例会開催 月 / 1回 H28年11月：倉敷市市民企画提案事業に応募 H29年2月：倉敷市移住ツアーの受入 H29年3月：倉敷市市民企画提案事業採択 H29年：コットンプロジェクトへの参加 H29年8月：市内大学生のインターンシップの実習場所として協力 H30年1月：インターシップ学生を受け入れ H30年2月：佐藤拓也氏を講師に招いての第1回研修会開催（参加人数28名） H30年2月：大阪市で行われた移住相談会に参加 H30年3月：移住ツアー受け入れ H30年3月：倉敷市市民企画提案事業採択 H30年6月：阿部典子氏を講師に招いての第2回まちづくり研修会開催（参加人数40名） H30年10月；阿部典子氏を講師に招いての第3回まちづくり研修会開催（参加人数40名） H30年11月：第1回農業体験交流会（参加人数61名）</p>
<p>現在特に力を入れていること</p>	<p>持続可能な地域になるための特徴づくり。研修会を開催して地域住民によるボトムアップのまちづくりの模索。</p>

2 団体概要と財政状況

<p>団体の活動・業務 （事業活動の概要）</p>	<p>玉島陶・服部地域まちづくり協議会には、渉外部会、おいでんせえ部会、PR・広報部会、ええとこ暮らし部会があり、くらしき移住定住推進室と協働して移住定住促進に努めている。</p>
<p>今後の活動の方向性</p>	<p>陶・服部地域の魅力が再発見され、自分の地域に愛着、誇りを持つ人を醸成し、元気に溢れている地域にする。 移住希望者を積極的に受け入れる地域（移住者でも家を建てることのできる地域）にする。</p>
<p>最新決算総額 （該当に をする）</p>	<p>100万円未満・100～500万円未満・500～1,000万円未満・1,000～5,000万円未満・5,000～1億円未満・1～5億円未満・5億円以上</p>
<p>定期刊行物</p>	

3 活動概要と協働実績

<p>助成金・補助金等の支援を受けた実績</p>	<p>H29年倉敷市市民企画提案事業「玉島陶・服部地区への移住定住促進事業」50万円 H30年倉敷市市民企画提案事業「玉島陶・服部地区に住みたくなる定住・移住環境の整備、移住希望者と地区住民との交流促進」50万円</p>
<p>他 NPO・市民活動団体との協働実績</p>	<p>穂井田社会福祉協議会との Cotton の栽培（倉敷市 50 周年記念事業）</p>
<p>企業・団体との協働実績</p>	
<p>行政との協働実績(委託事業など)</p>	<p>くらしき移住定住推進室と協働して「玉島陶・服部地区への移住定住促進事業」に取り組む くらしき移住定住推進室の依頼を受け、市内大学生のインターンシップの実習場所として協力 くらしき移住定住推進室の依頼を受け、大阪市で行われた移住相談会に参加</p>